

出会いふれあい 青春ing



インターンシップ（就業体験） がんばりました！

左から
河合 遥 さん、北野 裕貴 さん
林 卓矢 さん、中村 元太 さん
柳内 康介 さん

今回の青春ingは、市役所秘書・広報課にインターンシップで来られた、勝山南高校の河合遥さんが記事の取材編集をしました。

7月8日から10日までの3日間、社会へ出て行く生徒に実際に働くことを味わってもらおうと、勝山南高校で2年生を対象にインターンシップが行われました。今回、南保育園で体験にがんばっている4人の生徒取材してきました。

南保育園は、年齢の順にいくつかのクラスに分かれていて各クラスに生徒が1人ずつ配置されています。その中でも、4歳、5歳児を担当する北野ちゃんと柳内くんは話を聞いてみると、「この年の子どもたちは遊びたい盛りで、遊びの相手しようとしても一度に大勢でやってくるのでとても大変。」とJUNIA。

ここでは主に子どもとの相手をするのが仕事なのですが、同時に命を預かるという責任もあり、移動の時などには人数を確認したり、階段を上り下りするときは「ケガをしないように気を付けて。」と声をかけたり、動き回る子どもたちを集めたりと、とても忙しいです。

ただ子どもたちの相手をするだけではなく、常に安全に気を配り、小さな命を守っていくことがこの仕事の大切なところ。

この体験を通して成長した彼らが、社会に旅立つその時がこれからとても楽しみです。

平泉寺の苔を護ろう！

8月3日に、美しい苔を護ろうと平泉寺白山神社境内でクリーンキャンペーンが実施されました。

毎年、(社)勝山観光協会が各団体や個人、ガイドボランティアなど広く参加を呼びかけ実施しており、11年目を迎えた今年は、早朝にもかかわらず100人近くの参加がありました。

普段入ることのできないロープ内の雑草を摘み取ったり、木くずの除去などが主ですが、参加された皆さんはもくもくと作業を続けていました。

勝山市は今、国史跡白山平泉寺旧境内を含む白山麓の文化遺産群の世界文化遺産登録を目指して、いろいろな取り組みを行っています。

また、「かおり風景100選」にも選ばれた杉と蘚苔のかおりは、観光客にも大変好評であります。

観光協会では、今後も多くの皆様のご参加・ご協力を得ながら、この歴史深い自然を護っていききたいとのことでした。



ロープ内の雑草を摘み取る皆さん

ドイツスポーツ少年団が来訪

7月25日から28日までの4日間、ドイツスポーツ少年団一行12人が勝山市を訪れ、スポーツや文化交流活動を行い、相互の理解と友情を深めました。

今回の交流は、日本とドイツ両国が同じ期間、同じ人数の団員と指導者を相互に派遣し受け入れる事業の一環として行われました。



市長表敬訪問

一行は、市内スポーツ少年団員の各家庭でホームステイをして親睦を深めながら、歓迎レセプションやかつやま恐竜の森での恐竜化石発掘体験、恐竜博物館の見学、ソフトバレーや水泳などのスポーツ、お別れ夕食会などに参加し、さらに交流の輪を広げていました。

最終日の28日には、ホームステイ先の家族との別れを惜しみながら、次の訪問先である石川県に向けて元気に出発しました。



8月5日の地区予選会の報告で、「決勝大会では、リタイヤすることなくすべて完走したい。」と力強い言葉が返ってきました。

また、11月3日に県立恐竜博物館で開催される福井エキシビジョン大会には、前述の3チームに加え、さらに、勝山中部中学校チームと勝山高校チームも出場することが決まりました。



市長に県予選結果を報告（小・中学生）

WRO予選、がんばりました！

8月3日に、WRO（ワールド・ロボット・オリムピアード）福井地区予選会が福井工業大学で開催されました。

勝山市からは、小学生9チーム、中学生6チーム、高校生1チームがエントリーしました。

今年の大会は、国際大会が日本（横浜市）で開催されることもあり、参加チーム数も例年になく多く、いずれの部門も激戦となりました。そのような中、成器西小チームが小学生部門で3位、中学生部門では、勝山南部中学校チームが2位、勝山北部中学校チームが4位となり、以上3チームが8月31日の横浜市での決勝大会に出場することになりました。

また、11月3日に県立恐竜博物館で開催される福井エキシビジョン大会には、前述の3チームに加え、さらに、勝山中部中学校チームと勝山高校チームも出場することが決まりました。



スタート直後の様子（中学生競技）

国際的なイベントを企画したい！

スティーン・ティーン・シュローダーさん（22）
＝勝山市国際交流員＝

市国際交流員デビッド・ティアニーさんの後任として、8月1日に着任したスティーン・ティーン・シュローダーさんは、コロラド州の出身で、早稲田大学に1年間の留学経験があり、アメリカの大学では日本語や国際交流などを専攻してきました。

スティーンさんは、日本での田舎暮らしが今初めてということと、勝山市の印象を聞くと、「勝山は山々に囲まれたとてもきれいなところだと思います。コロラドにも似ています。そして、勝山の皆さんはとても親切です。」と笑顔で応えてくれました。

また、アメリカでは子どもを教えた経験があるということで、勝山での学校訪問をとても楽しみにしていました。

趣味は、得意のスキーやスノーボードですが、日本の書物も読み、特に村上春樹の作品が好きとのことでした。

勝山に来てやりたいことなど抱負を聞くと、「具体的には分かりませんが、とにかく国際的なイベントを企画したい。まずは、ハロウィンパーティーをやりたいです。」と、元気な言葉が返ってきました。

すてきに人生

